

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 2年12月12日
(92号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学塾
第97講

「平和の種に育みたい」
地雷原の村での戦い
高山良二先生



■命懸けの地雷処理

『約三十年前、カンボジア・タサエン村では大きな内戦が起こった。そしてそれは今も地雷として深い傷を残している。それを変えようと立ち上がった日本人が愛媛県出身の高山良二さん、地雷処理を行なっている。これまでに処理してきた地雷は一七〇〇個、それはふだん使用している場所から発見されることもある。命懸けで地雷処理をする高山さんを村の人は家族のように「ター（おじいさん）」と呼ぶ。（映像より）』

今はカンボジアで暮らしていますが、地雷処理が最終目的ではない。村が安全に、もう少し人間らしい生活になったらいい、と感じています。よくカンボジアのために命を懸けて偉いなどといわれますが、自分のやりたいことをやっている、楽しんでいだけです。

Q、地雷を掘り出すのは非常に危険だが、手順はどうするのですか？

A、まず地面すれすれに草刈りをする。その時も目視しながら、1.5m×30cmくらいの範囲をきれいにしてゆき、そこを金属探知機の反応を見てそうつと触れないよう掘ってゆきます。

掘ってゆくには訓練が要りますが、失敗もしました。二〇〇七年作業中に対人地雷が爆発し、七人が木っ端微塵となってしまった。私たちのチームはカンボジア人約一〇〇名とともに作業していますが、不幸にして犠牲の出る事故が起こってしまったのです。

事故が起こらないためには二つのことに注意しなくてはならない。一つは「規律」。もう一つは「技術」。規律が落ちているとき、あるいは、技術が未熟だとやはり事故に繋がってしまう。技術

のある慣れた者でも、マニユアルに従って作業を進めなければ危険なのです。ここに来たときには長くて十年ほどの滞在との心積もりでしたが、事故の体験で、ここに骨を埋める決意をしました。日本に帰ってゆつくりしようなどという気持ちは持てなくなりました。

■現地の人の自立を目指して
Q、タサエン村に地雷が埋まつてるのはなぜだったのですか？

A、活動に入るにあたり、カンボジアで一番被害が大きく、貧困な地区を確認したところ、タサエン村でした。そこは内戦最後の激戦地で、支援の手の着けられていないところだった。私はすぐにそこに行くことにしました。調べると、タサエン地区は六つの村から成り、一畝以上の地雷野が六〇箇所以上あるとのことでした。



支援活動とは、支援者がいつまでもそこにいるのが望ましいのではない。現地の人々が自立するのが最終の目的です。地雷処理をしたあと、その土地はどう使っているのかというと、まずそこに植えたのはキャサバという芋です。この芋を隣のタイに売ったところで安いので、付加価値をつけようと、芋焼酎の工場を作りました。NP O活動なので、収益は出せないため、会社を作り、収益が出たら活動に寄付する形をとっています。カンボジアでは加工産業をおこさないことには、なかなか支援も難しいのですが、今だんだんと支援者も増えてきました。

■誇りに思える日本に

Q、最初にカンボジアに行かれて、何に感動し、戻ってこられたのでしょうか？

A、最初はPKOで行き、期間は半年。当時は社会貢献の草分けでしたし、指導者の立場でもあり、

あまりにも忙しく睡眠時間もないほどでした。日本に帰ると家族に会えるし、大きなブレッシャーからも解放されてよいのだけれども、どこか後ろ髪をひかれる思いが拭えない。十年経ったら自衛隊は定年になるので、その時にはまた戻ろう、と決めました。カンボジアのため、というよりは、自分の納得のためとしか言いようがありません。五五歳で自衛隊を定年になった四日後にはカンボジアに向かいました。

Q、地雷処理は命懸けと思うが、それを「楽しんでる」と言われる意味を教えてください。

A、お金もないのに海外にNP Oや会社を作る、そんなとんでもないことをやってきました。思いがあつたから突っ走ってこれました。

PKOで半年現地にいたところで何も出来なかった。だから組織を離れたなら、とことんやってやろうと思いました。自分のやりたいことをやっているだけなのに、世間では高く評価されてしまった。退職後も既存の組織では果たせなかったので、団体を立ち上げました。目指したのは「自立復興」。

現地の人を自立させて、いつか自分は消えうせる。だからうちの職員には「この団体はできるだけ早く解散できるよう頑張ってください」と伝えています。組織が大きくなると、最初の思いとかけ離れてゆき、団体を存続させることが第一義となってしまう。日本の支援にしても本質はなにかを議論していただきたい。私たちはいつからか本来の日本人ではなくなった。戦後勝者であるGHQの占領政策により、日本の土台がまるで発泡スチロールとなってしまった。カンボジアの活動を通して思うのは、一番やらねばならないのは「気がつくこと」。早くこの洗脳から解かれ、日本が世界をリードせねばならない。本当のことはなんなのか。これからの国際社会には、子どもたちが誇りに思える日本となるよう、日本の土台を変えてゆくことが大事です。

(抄録 中川千都子)

《感動語録》

◆講師 高山良一先生

◆進行 福本浩之 世話人
「平和の種になりたい・・・!!」

カンボジアとのライブ通信



- ・「日本の土台」を創らなければ…。
- ・支援の本質は、目的を達したら団体を解散する。
- ・GHQの洗脳政策からの脱却。
- ・「ありがとう」「スリッパを揃える」等の教育。
- ・「どちらが正しいか」ではなく、「なにが正しいか」。
- ・初期の地雷処理活動から、村の自立への支援活動へ。
- ・カンボジア人に必要なのは、自助を教えること。
- ・マスメディアのストーリーに乗らず、自分のしたいことだけやっている。
- ・カンボジアの自立復興の為にやっている。
- ・命をかけて、「自分の納得の為に活動している。
- ・支援に付加価値をつける。自立、教育、復興
- ・日本の精神、「美德」トイレのスリッパ・ゴミの分別
- ・支援の本質 ↓ お金ではなく自立を促す。
- ・村が安全で、人間らしい生活を取り戻す。

《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録



「タンポポの根のように」

さる三月二十一日、真民先生の「念

ずれば花ひらく」の碑を建立し除幕式を行いました。鈴木塾頭さんはじめ読書会のみなさんが二十名あまりお集りいただきました。「鳩寿五 真民」と刻まれています。

すなわち真民先生の九十五歳の揮毫であります。

なおこの碑は、六七四番碑に相当します。とりわけこの六七四の数字がありがたいのです。ムナシと呼んで、無常・無我を表わす数字だからです。

この土地は、国道に面する三角地のせん端に、府の許可をえて建てました。わが家から歩いて十歩の地点です。宮本眞弓ご夫妻がわざわざ野生のタンポポを碑前に植えて下さったので、陽の光をうけて、せいっぱいに開く黄なる小花が、うれしく、たのしみでした。とくに真民先生のお好きなタンポポだからです。しかるに府の環境設備の方が、雑草と思ひ、ひきぬいて捨てられました。ざんねんでした。宮本様にいま一度おねがいして再度植えてもらひはがき大の板の立て札まで作ってもらひ、その板に

強くなろう タンポポの根のように

美しくなろう タンポポの花のように

軽くなろう タンポポの種のように

真民

と書きさえ、真民先生の願ひにそつて、タンポポを植えております、と書き加えました。

路ゆく人の眼にふれて、立ち止まって読んで下さる人があるかも知れません。それはともかくも、わたくしひとり毎日なん回となく楽しみ眺めています。

「天分塾ニュース」平成16年5月掲載より

《凡事徹底 一日一語》

●行動を変える

誰もが、自分の人生をより良いものにしたたい願っています。

ところが、そうした願ひを持ちながら、自分の悪しき行動を少しも変えようとしていない人がいます。

それでは、いつまでたっても人生が好転することはありません。まず、習慣となつている悪しき行動を変える努力から始めることです。よい行動が、よりよい人生へと導きます。

●よい生き方

一言でいうと、「権利は小さく、義務は大きく」ということに尽きます。

権利を先行すると、心が不安定になります。その分だけ、生き方そのものが卑しくなります。

反対に、義務を優先して大きくするほど、心の安定が得られます。その分だけ、おだやかな気持ちになり、心が落ち着いてきます。くれぐれも楽しんで得ようなどと思わないことです。

●志の土台

人は誰でも夢や希望や願ひを持っています。ところが、その思いは年月の経過と共に薄らいでいきます。

その際、自分の土台をどのように受け止めるかで大きく違ってきます。

「薄氷」を受け止めれば、その下には絶望しかありません。

逆に「コンクリート」と受け止めれば、勇気が湧いてきます。

受け止め方しだいです。

《森信三先生に学ぶ「陰徳下座の行」》

◆しつけの三か条

- 一、朝のあいさつのできる児に
- 二、呼ばれたら「ハイ」と元氣よく
- 三、脱いだ履物はそろえる

森先生はこの三か条を挙げ、この三つさえ躰けられたら、人間としての軌道にのせることができると仰せです。わたくしとしても森先生から「朝のあいさつ 人より先に」を教えられたことがどれだけわが心の救いにつながり、家庭・職場・集団の空気を日々新たにできるかの実証を得、この一事だけの教えだけでも限らない恩恵を思わずにおれないのです。

また「はきものをそろえる」ということ、すなわち入船でなく出船にそろえることは、行動の締めくくりであると共に、次なる行動のスタートにつながることで、ある時、森先生から注意を受けました。後から上がられる方のことを思つて、隅の方へそろえて上がるのです。と、こうした基本動作さえ教えられなければ知らなかったわたくしでした。

また森先生は、学校再建の三大原則として、(一)職員に朝のあいさつを先のこと (二)生徒の下足箱のクツをそろえる (三)学校のゴミを拾う 三ことを校長自ら実践したら学校は、三ヶ月で軌道に乗ると明言せられておりますが、自ら体现せられた実践的真理だけに、まことに力強いものを感じます。

わたくしも森先生に随行し、しばしば目撃しましたが、紙屑をひろわれる敏捷さ、また便所のスリッパをそろえられる素早さ は実に見事なもので、あ然とするばかりでした。

りでした。

その時、おっしゃられたのは、高いところに立って物申す人間は、せめてこうしたことができねば、申し訳ない。



◆なぜ「下座行」が必要か

森先生の『全一学』五部作の一つとして、『情念の形而上学』という著述があります。情念とは、仏教的に言煩悩で、俗に言う癖性分です。この情念の種々相を分析せられたあとで「情念浄化の方途」を説いておられます。

ここにも森先生の大慈悲心が感じられるのですが、八つおあげになった中に、畏敬・立腰・慎言・下座・耐忍・明知・心願布施奉仕 の中に「下座の行」を加えておられることは見逃すことはできません。

その書の中で、
★そもそも一人の人間が、その人の真価より、はるかに低い地位に置かれていながらそれに対して毫も不満の意を表さず、忠実にその任を果たすというのが、この「下座行」の真の起源と思われる。

★下座行とは、一応、社会的な上下階層の差を超えることを、体を持つて身に対する「行」といえる。

例えば「高慢」というがごとき情念は、自分の実力を真価以上に考えるところから生ずる情念といつてよからうがもしその人に、何らかの程度でこの「下座行」的な体験があったとしたら、その人は恐らく、傲慢に陥ることを免れるのではあるまいか。 と仰せです。

「小慈小悲もなき身にて みだりに人師を好むなり」

と述懐せられたのは親鸞聖人でしょうか。人の師たる人はとりわけ、この下座の体験者であり、下座の行者であることが、何より大事であることだけは、このわたくしにも納得せられます。

ある時、先生にお尋ねしたことがあります。「どうして先生は隠れた真人の発見者であり発掘者でいらつしやるのですか」と申し上げると、「それは舞台に立つてから眺めておるとわからぬのです。同じ平面の平土間に立つと、よくものが見えるのです」とおっしゃられました。アンダースタンド (understand) とは、理解するということですが、下に立つという意味にもとられると、どなたかから聞いたことがあります。

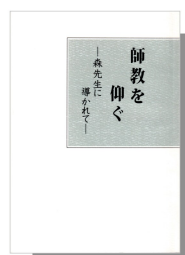
森先生は、七十七歳にしてかつてない不慮の逆境に遭遇せられた際、期限付きで立ち退き寸前の家屋に單身投ぜられ、三ヶ月後に近くの廃屋に転じ、みかん箱を食卓に、独居自炊の日々を送られたことがあります。こうした逆境にあつて、真つ先に心掛けられてことは、地域の方々へのあいさつであり、郵便局への途中のゴミ拾いであつたのでした。

「師教を仰ぐ 森先生に導かれて」

寺田一清 著より抄録



時を守り
場を清め
礼を正す
教育哲学者 森 信三



《人間学塾・中之島》

■ 令和3年1月カリキュラム

*日時 1月9日(第2土曜)

午後1時〜5時

*場所 大阪大学中之島センター(10F)

*講師 木南一志氏

「百人の一步の為の百歩」

1969年 兵庫県生まれ。株式会社新宮運送代表取締役。

『S-DEC運動』という、4000日間の無事故無違反を推進する循環型の運動を実施、「事故が起きても仕方がない」という考えを壊し、社員の自発的な努力の必要性を促している。本物と呼ばれるような企業を目指して、柔軟なスタンスで事業を推し進めている。

※ 今期は、コロナ禍の影響により、大阪モデルを遵守し、集団での会食を避けることで、「新年の集い」は、中止とさせて頂きます。

《読書感想文刊行案内(再案内)》

※ 第九期「文集」冊子への原稿提出のご案内!!

良書との出会いは、人生を一変させます。

「聴いて一歩前進、書いて三歩前進」

読書は、自分の中に「信」がねづきます。

・ 選定図書は、自由に選んでください。みなさんには非紹介したい書籍を選んでください。

◇ 文字数 1200文字以内で：原稿用紙3枚

◇ 締切 令和三年一月一日必着

◇ 提出先 学塾・中之島 事務局

◇ 発行 令和三年三月予定

《芳信抄》

東京都 鍵山秀三郎先生

中川千都子様が病のご体験を通して、「意宣」に到達なされたことを教えて頂きました。

寺田一清先生が森信三先生のお教えを私共にも分かりやすく説いてくださり、ありがたいことです。人間学塾の皆様が学び続けられていることに敬意を表します。

埼玉県 山下武彦様

中川副代表の特別講話は感銘深いものです。

心の持ちようとそれを行動で示すことが、どれだけ大きな力を生むものかがよくわかります。

また、再スタートにあたって森信三先生の教えについて、寺田様・鍵山様から改めて思い起こさせていただき、森先生が今なお生きておられることを感じ入りました。人間学塾の増々の発展を念じます。

日置市 中島和之様

大病をしつつも頑張る中川千都子さんは、本当に偉いですね。

この中之島ニュースも、よく尽力されてつくられています。

寺田先生の「天分塾ニュース」も生きています。

寺田様とは全く連絡の取れぬ一年でした。

四国中央市 桂 誠司様

コロナ禍の中で、工夫されての開催嬉しいことです。講師が来られなかったのも仕方がないことですね。

次回からの開催が上手くいきますよう祈念いたしています。

川越市 大出雅一様

「心に残る話」ありがたく拝受しました。久しぶりにお便りいただき嬉しく思っております。活動に心より敬意を表します
癌の手術を6回も受けながら失望を希望に転換さ

れた中川様の生き方に心動かされました。万策尽きた状態から、「ありがとうございます」への心境の変化は、何としても凄いと教えられました。

森教学を噛み砕いてより分かり易く説かれた寺田先生、阿部豊様の早朝掃除の実践、どれも心に響きました。

名取市 加藤秀夫様

コロナ禍で中断止むなき時期をのりこえて、塾の再開に至りましたこと心よりお慶び申しあげます。

中川千都子副代表による特別講話、現在の混沌の時代を生きる指標をいただき厚く御礼と共に、ありがとうございます。

名古屋 塚本恵昭様

コロナ禍中の運営大変ですよね。お察し申し上げます。わたくし共は、ずーっとオンラインです。ワンチャン元気ですか？私どもは16歳となりました。

豊田市 坂部智一様

中川千都子様の講演録拝読。「ことばを変える」とくがありがとうございますの10文字を唱えること、人生好転への法則教わりました。

「頑張り屋で負けず嫌いの性格」と自分で公表され凄いことと思います。欠点は隠したいと思います。

また島田富美子様、さすがであります。涙が自然と目にあふれてきます。「一人一天分」のお方ですよね。

春日井市 稲垣孝志様

あなたは自分が困っていること、人に話せますか？わたしはほとんど抱え込んでしまっています。

ボキリといかないよう工夫が要。

岡山市 柴田久美子様

中川様の講話録に感動しながら読み進めると、に「看取り士日記」がありました。大切な紙面を割いていただきました真心に手を合わせております。全ての方々の平安な最期を祈るばかりです。